

③ビジネス通訳

外国から取引先の人に来た際のアテンドや商談、プレゼンテーションなど、ビジネスの場で必要とされる通訳。レベルによって仕事内容が変わり、キャリアの浅い人はアテンド通訳や会議の受け付けなどを担当。その後、展示会のブースでの通訳や、商談での通訳などにステップアップしていく。

韓国企業や韓国と取引が多い企業に勤務する社内通訳の場合、正社員として採用されることもあるが、人材派遣会社を通じて依頼されるのが一般的。ビジネス通訳の多くはフリーランスで、通訳エージェントから紹介され、案件ベースで仕事を引き受ける。社内通訳を経て、フリーへの道を歩むケースも。

④エンターテインメント通訳

韓流スターの記者会見や舞台あいさつで、そっと横に立ち通訳をする姿を目にしたことがある人は多いだろう。人前に立つ華やかな印象が強いのがエンターテインメント通訳だ。とはいえ、裏方的な仕事も少なくない。例えば日韓合作のドラマや映画の制作、韓国の劇団の来日公演などの現場で、監督の指示を俳優やスタッフに伝えたりする役割も。アーティストのツアー公演に随行し、通訳することもある。

第一線で活躍するエンターテインメント通訳のほとんどは、スターの事務所や映画会社などから直接依頼を受けるフリーランスの人だ。時には、俳優が所属する事務所の社員が、インタビュー通訳を担当することもある。

COLUMN



通訳エージェント
株式会社アミット
代表取締役 芦塚洋美さん

登録者を採用する際に重視するのは、学生時代の専攻や職歴、そして通訳としての実績。語学の資格は参考程度です。経歴書自己PRの文章や登録時のやりとりも大切で、ビジネスマナーやコミュニケーションなどをチェックします。

通訳スキルは問題ないことを前提にした場合、お客さまから評価が高い通訳者の共通点は、①高いコミュニケーション力、②柔軟な対応力、③ホスピタリティー（気

遣いや配慮)です。通訳者は、直前のスケジュールや内容の変更など、想定外の対応を求められることも少なくないため、臨機応変に応じてくれる通訳者は、エージェントとしても仕事を依頼しやすいですね。通訳スキルが高くても、出しゃばりすぎる人は、お客さまから敬遠されがちです。

韓国語で需要が高まっているのは、ニュースや報道などの映像通訳、消費者調査のグループインタビュー通訳、商談・展示会などのイベント通訳です。通訳者を目指す人には、とにかく現場の経験を積んでほしいと思います。ボランティアでもいいので、通訳できるチャンスがあれば、積極的にチャレンジしてみてください。